

収支シミュレーションについて (再整理)

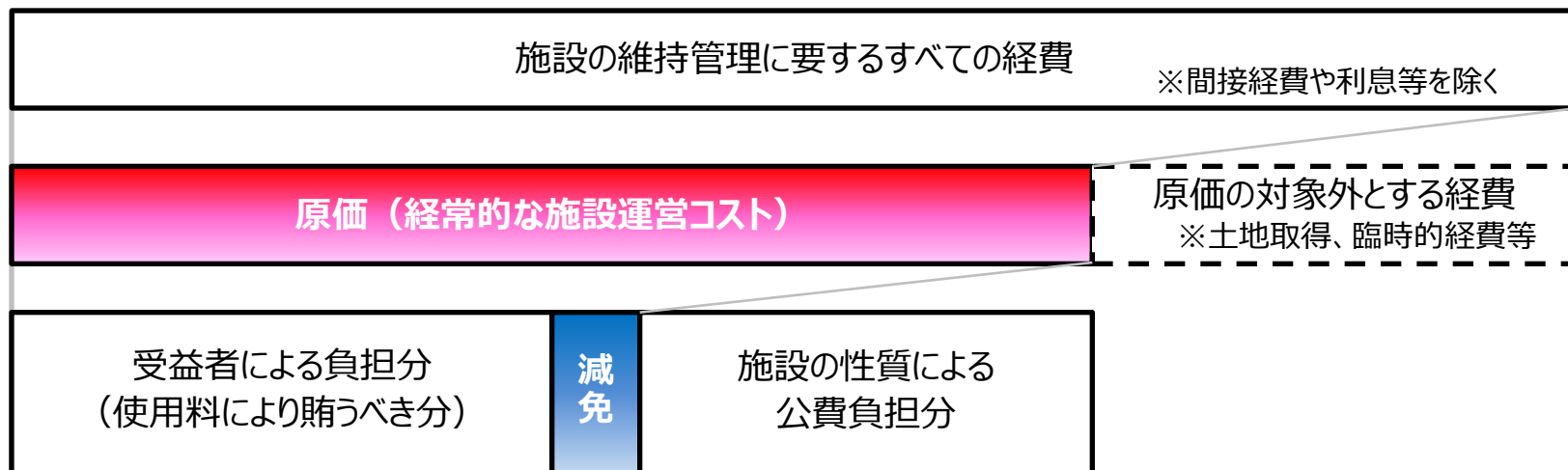
天王寺動物園



再整理すべきポイント

公費負担率50%の考え方について

『市政改革プラン2.0（平成28年8月策定）』において、天王寺動物園は受益者負担率50%を目指すべき施設とされている。これは、市民利用施設の受益と負担の状況を把握し、適正な使用料（料金）の算定を行うための基準とされており、使用料算定は次のイメージ図のとおり行われるのが望ましいとされている。



【目標設定における留意点】

➤ 「政策減免等」の取扱いについて

市政改革プランでは、所定の使用料を政策的に減免している分についても徴収したものとみなすことができるとしている。

➤ 「原価（経常的な施設運営コスト）」算出について

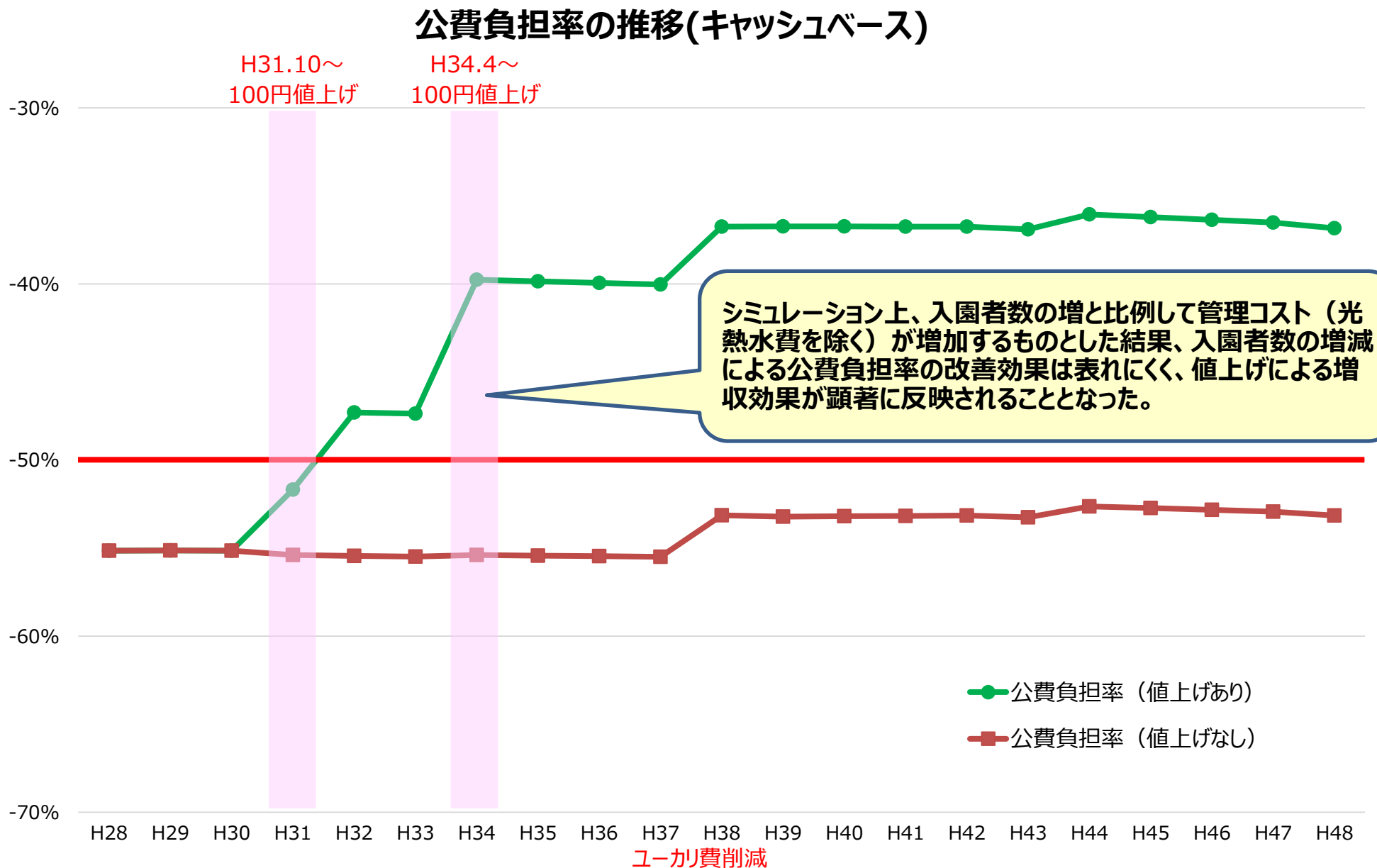
原則は減価償却費を算入すべきであるが、当面の目標としては減価償却費を算入しないコストをベースに、他都市の使用料水準等も考慮して検討する。

天王寺動物園における適正な公費（⇔受益者）負担率の算出にあたって、第3回懇談会資料において、政策減免額が大きいことからキャッシュベースでの算出が最も厳しい設定であることが判明した。

また、他園比較においても政策減免や減価償却を含めて算出している事例が少ないことから、キャッシュベースにおいて公費負担率50%をクリアできるかどうかを、経営合理化の基準とする。



【参考】公費負担率の推移（キャッシュベース）



【参考】公費負担率の推移（キャッシュベース+必要経費込）

公費負担率の推移(キャッシュベース+必要経費込)

